

目指す学校像

「令和の多摩川小学校」

多摩川小学校 校長 上杉 潤

- Q. 「令和の多摩川小学校」とはどんな学校ですか？
- A. これまでの多摩川小学校のよき伝統と文化を尊重し、保護者・地域と一体となってこれからの社会を生き抜いていける力を育む学校です。
- Q. もう少し詳しく教えてください。
- A. 文部科学省が提唱している「令和の日本型学校教育」に沿った考え方です。
「誰一人取り残すことなく、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」を実現する学校です。
- Q. 教育目標は何ですか？
- A. 教育基本法第17条第2項の規定に基づき、調布市教育プランに沿って、次のように設定しました。また、これまでの多摩川小学校の目標でもあります。
思いやりのある子<徳> 自分の考えをもつ子<知> 体をきたえる子<体>
- Q. どんな子どもたちになるのですか？
- A. 子どもたちと教職員の目指す姿を紹介します。
- ・一人一人が、自分のよさや可能性を認識する
 - ・一人一人が、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する
 - ・一人一人が、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越える
 - ・一人一人が、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる
- Q. 1年間でそれを実現させるのですか？
- A. いいえ、3年後にそうなれるよう1年ごとのめあてを設定します。
今年度の重点目標は、「思いやりのある子」を育てることです。
授業をベースにした学校創りを考えています。
- Q. どのようにして「思いやりのある子」に育てるのですか？
- A. 「思いやりのある子」に育てるために次のことを実践します。

思いやり（あらゆる他者を尊重する）のある子に育てるためには、まず、自分を知り、自己肯定感・自己有用感を高めることが必要不可欠です。そこで、今年度は一人一人の自己肯定感・自己有用感を高められる取組を行います。

☆ 自己有用感を高めるための教育活動をお願いします。

<以下は参考まで>

Q. 自己肯定感・自己有用感を高められる取組を具体的に教えてください。

・授業改善 学習指導要領に示されている目標を確認するとともに、主体的・対話的で深い学びを通じて個別最適な学習や協働的な学習を実践します。これにより、自らが課題を設定し、自らが課題解決方法を考え、自らが課題を解決する問題解決的な学習に取り組むことができるようになります。自分の力で課題を解決できたという自信が、自己肯定感に結び付くと考えています。

・小中連携 小学校と中学校の児童・生徒や教職員が連携を深めると、小中学校の学びの連続性・中 1 ギャップによる不登校生徒の防止に役立つことが期待できます。また、交流活動を通して中学生に対するあこがれや、小学生から頼られることにより自己有用感が高まります。調布市では、令和 5 年度を元年として「小中連携教育」に取り組む準備が進められています。本格的な実施の前に、進学先の中学校や中学校区の小学校との連携を図ることは有意義であると考えています。今年度は、本格的な小中連携教育の導入に向けて、小小連携や一部の小中連携、教科担任制の導入準備に取り組みます。

教科担任制は、高学年を中心として一部教科担任制に取り組んだり、交換授業に取り組んだりすることを通じて、時間割作成などの問題点の洗い出しと解決に取り組みます。

・CS 協議会 コミュニティ・スクール協議会（SC 協議会）は、法的に学校運営に参画できるシステムです。これまでも地域の諸団体に支えられてきましたが、学校と地域がより強固な連携を図り、日々の授業にも直接・間接的に関わるようにすることになります。

・働き方改革 授業改善・小中連携・教科担任制・CS 協議会等、新たな試みに取り組むためには、時間の確保が必要です。特に、授業改善は時間を有し、最も教員が力を入れなければならないことです。この時間を確保するために、これまでの働き方を見直す改善に取り組みます。